

春の企画展示 4/25～9/22

「ガラス乾板の残した光景」を 開催しています

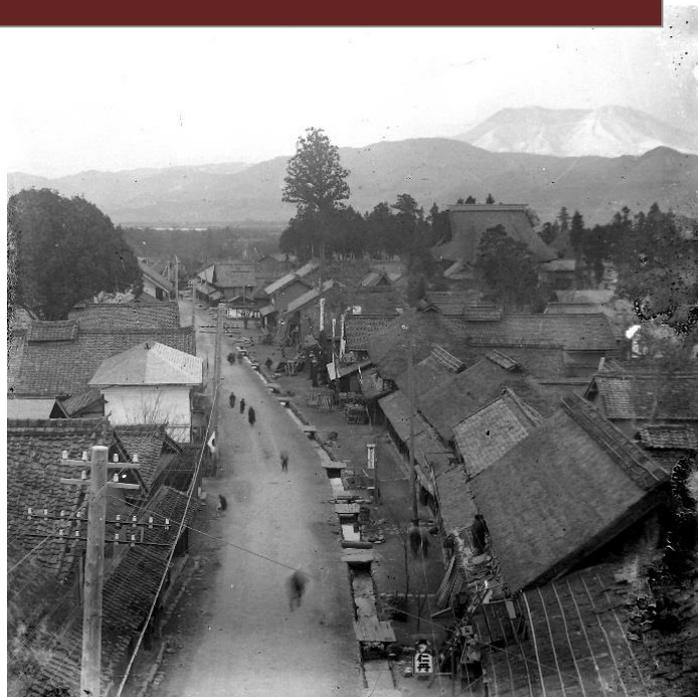
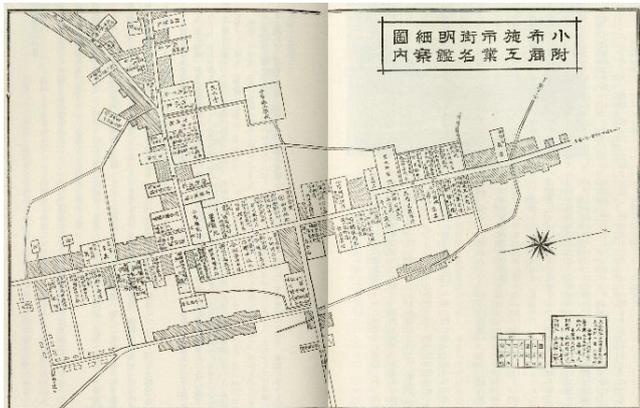
文書館では、昨年、町内の個人宅に残された貴重な写真やネガフィルム等の写真資料の寄贈を受け、この中には、558 点に及ぶ「ガラス乾板」が含まれています。

ガラス乾板(写真乾板)は、フィルムの発明以前、ガラス板に感光する写真乳剤を塗って撮影したもので、寄贈いただいたガラス乾板は、主に大正時代の郷土の様子を撮影したものと思われま

す。今回の展示では、この時代の小布施の人々の暮らしの様子や、町並みなど、ガラス乾板に残された光景の数々を御紹介しています。

写真①は、町組の火の見やぐらから撮影した谷脇街道(横町通り)の風景です。

これに類似した写真が、大正 3 年に刊行された「上高井郡誌」(上高井郡教育会)に掲載されていることから、大正初期の横町通りの風景と思われます。写真左中央に見えるのは「小布施郵便局」で、明治 29 年 12 月に新築、木造 2 階建ての洋館でした。写真右手奥には「龍雲寺」が見え、また、写真右手前に「仁丹」の看板が見え、薬屋であることが分かります。なお、町組の火の見やぐらは、現国道 403 号「中町南」交差点から西へ下った所に、昭和 30 年代まで存在していました。



写真① 町組の火の見やぐらから撮影した横町通り

左下の図は、大正元年印刷の「小布施市街明細図」(「小布施町史」より)で、当時の商店街の様子が分かります。

写真②は、節句幟の前で孫の初節句を祝う家族の記念写真です。

五節句の一つ、5月5日の「端午の節句」は、小布施では昔から月遅れで行われていました。男の子の「初節句」は、昔から盛んに行われていましたが、御大家では親元や親類から、幟旗も贈られました。親元からは一対贈る風習があり、旗の上部へは家紋が入れられ、もらう側の家紋は上部へ、贈る側はその下へ入れることに決まっていた。



写真② 孫の初節句を祝う家族

小布施町
文書館

開館時間 午前9時～午後5時 休館日 毎週日・月曜日、祝日、年末年始
長野県上高井郡小布施町大字小布施 1491-2(小布施町役場3階)
Tel. 026-214-9114 e-mail : archives@town.obuse.nagano.jp